



持久走監視支援を終えて

9月11日（木）から30日（火）までの練習日、そして10月2日（木）の大会当日に、延べ23名の応募がありました。保護者が7名、学校運営委員が2名（1名は祖父母兼ねる）の計9名でした。昨年（令和6年）は延べ26名、応募者は7名でしたので、実質数は増えました。

なお、下の画像は、私が監視した日の出来事です。



走る前に、監視の方々の前で
「お願いします」とあいさつ。



10:20からの「20分休み」に自主的にグラウンドを走る子どもたち。
BGMが流れる中、私服のままで一心に走る。6年生女子もいました。



上の画像にこそ「持久走を通して育てようとする子どもの姿」が如実に表れていると思いました。ただ単に速く走るのではなく、「地域の方々がこうやって応援してくれているよ。その人たちへの感謝の心をもって、精一杯走らなくちゃ。」「体育の時間だけでは決して十分とは言えないわ。苦しいけれど、仲間と励まし合って、進んで体を鍛えましょう。」との思いを持つ子どもが着実に育っているなと感じました。

市主催「地域向け意識醸成研修会」の報告 -10月7日(火)-

早いもので、4年目を迎えた今年も下半期となったコミュニティ・スクールの取組。今回の研修も、旧6か町村ごとに日をずらして行われました。堀之内地区では宇賀地小会場で18:30~20:30の日程でした。

「意識醸成」とは如何にも堅苦しい研修会のタイトルですね。でも、実際はグループでの和気あいあいとした話し合いがメインの研修会でした。



【参加者（堀小分）】 坂本由紀子さん（保護者）、貝沼 裕英さん（学校運営協議会会員）、藤田校長先生、金澤教頭先生、大塚先生、上村の6名

【プログラム】

- 1 樋口教育長あいさつ
- 2 ニレクチャー「CSってなに？」（講師の特定非営利活動法人 みらいず works 様）
- 3 グループトーク
 - (1)「みんなで育てたい子どもたちの姿を考える」
 - (2)「実施している活動を共有する」
 - (3)「ワクワクするアイデアを考える」
- 4 グループ相互の話し合い内容の共有（堀小、宇賀地小、堀中の各グループが発表）
- 5 振り返りとまとめ

【 グループの話合いの流れと、その結果 】

① 堀小で育てたい子どもたちの姿とは? → みらいづ works が提示したいくつの項目の中から 1 つが選んだもの

自分はやればできる人間
だと思う子(自己肯定感)

いま住んでいる地域が好き
である子(地域への愛着)

難しいことでも失敗を恐れな
いで挑戦する子(やり抜く力)

② ①に向けて、地域やPTA はどんな活動をしていけるか?

A : 現在、子どもを対象に行っている活動・子どもがよく参加する活動

地域や地域住民で : 登下校見守り隊活動、「大の阪」踊り、盆踊り大会、塞ノ神、お神送り、十五夜祭り(ミュージックフェスティバル・絵画展)、地域美化活動、地域での納涼懇親会、月岡祭り、月岡ゆり祭り、敬老者祝菓子のお祝いメッセージ書き、科学研究ヒット教室 等
◆「祭り」関係や地域の伝統文化に関わる行事が多いことが分かりますね。

PTA会員やPTA行事で : 校舎内外の環境整備作業、アルミ缶資源回収、等

地域・PTA共催で : どんど焼き、八幡宮相撲大会、等

授業の支援活動として : 「地域たんけん」、学校田栽培活動、音楽発表会のピアノ伴奏支援、打球・持久走監視支援、シルク学習支援(株シガボーラー元社員により1月から開始)、等
◆先生方が苦手な領域や不慣れな領域、情報が不十分な領域があることが分かりますね。

B : これから子どもや学校と一緒に協力してできそうなわくわくする活動のアイデアは?

学校の中・授業の中で :

- ア 「町たんけん」のためのコーディネーター役や協力者(商店主など)の発掘と確保
- イ 地域住民の中から講師を探して、クラブ活動を行う(短歌や俳句など。2時間続いているなどして)
- ウ 昼休みに「CSルーム」を活用しての子どもと触れ合う活動(囲碁、将棋、麻雀、読み聞かせ、など)

◆11月21日(金)の学習参観日の昼休みに、CSルームの紹介を兼ねて、子どもたちが興味を持って集まりそうな交流の場を企画して、それを保護者の皆さんから見てもらってはどうでしょうか?

- エ 支援ボランティアの募集→図書館ボランティア。(現在「司書補助」がいるが、週3日のみ)
学習ボランティア(昨年度、低学年の補充学習に協力してもらった)
- オ 「働く」ことの大切さを学ばせる→職場体験などのキャリア教育、ゲストティーチャー、テクノスクール関係者など
- カ 学校畠の雑草対策も兼ねて、大型プランターを利用してのユリや野菜などの栽培活動

【 研修を終えて 】

堀小では、「地域学校協働活動(地域住民が学校と連携・協働し、子どもたちの学びや成長を地域全体で支え、『学校を核とした地域づくり』を目指すための様々な活動)」を本当に多岐に渡って行なっているのだなあと、改めて感じました。一方、地域住民も毎年歳を取ります。地域の人材や産業、文化の後継者をどう育てていくか、また、教職員の皆様も子どもたちのためにどれを取捨選択して無理なく教育活動に取り入れていくのかが常に問われています。今行っている活動が果たしてベストなのかどうか?これからも考え続けて行かなくてはなりませんね。